

UAVの知識深める

県西農林で勉強会開く

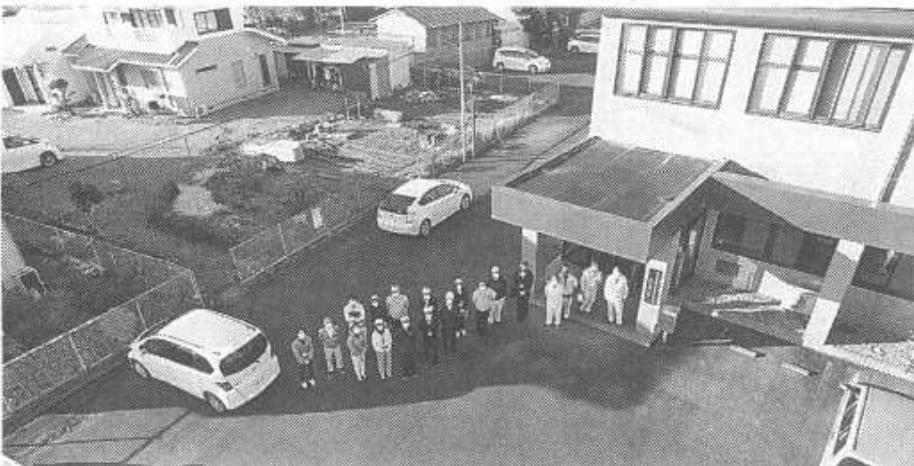
地理空間情報推進協会

地理空間情報推進協会（中島博敬代表理事）は11月19日、茨城県県西農林事務所土地改良部門な

V（ドローン）研修会を開催した。研修会は座学編と体験編で行われた。

座学は、ドローンとは何か、公共事業への展開（写真測量やレーザー測量の活用方法）について、体験編では、デモ飛行や操縦の基本操作体験の内容であった。

研修会の質疑では、受講者から「空撮と3次元点群作成ではカメラを別ける必要があるか?」、「3Dモデルの活用についてどんな利点があるのか?」、「3次元点群の精度について」などを質問。これらに対して協会からは「カメラは成果に合わせて使い方が重要」「平面図・横断図・縦断図という2次元での理解ではなく、3Dで状況が見える化することで地域住民説明への応用が可能」「裸地を対象とすれば誤差はない」と回答した。



操縦の基本操を体験した

UAVで記念撮影